

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network

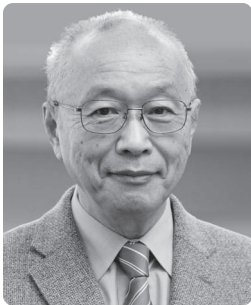


30th ANNIVERSARY

2024年1月★第148号

MELONの30年！これまでとこれから

理事長 長谷川 公一



長谷川公一理事長

みなさま明けましておめでとうございます。血生臭い戦争、気候危機による水害や干ばつ、政治不信等々、内外の暗いニュースが続きますが、少しでも希望の光を見出していきたいものです。

2023年は、1993年6月5日に設立された、財団法人（現公益財団法人）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）30周年のお祝いの年であり、30周年記念事業として環境を軸にSDGsを学ぶ連続講座「MELONみやぎSDGs環境アドベンチャー」を展開してきました。2024年は、6月頃に開催予定のMELONフェスタで30周年記念事業もフィナーレを迎えます。

30年は一世代。親が子どもを生んでから、その子どもが次の子を生むまでの平均的な時間の長さが一世代とされています。

1945年の敗戦から1975年までの30年。この間に日本は農業中心の社会から工業国へ、さらにサービス経済中心の社会へと大変貌を遂げました。それとともに深刻化した環境問題という新たな社会問題が、MELONのような環境NGOの誕生を促したのです。

さらに30年後、私たちがMELON60周年を祝うのは2053年です。2050年以降には排出する二酸化炭素

の量が吸収される二酸化炭素の量を下回るカーボン・ニュートラルを実現させることを、国際社会も、日本政府も、宮城県はじめ多くの地方自治体も約束していますが、はたして実現するでしょうか。

MELONの30年を支えてきた大きな力は、五つの協同組合の力です。宮城県農業協同組合中央会、宮城県漁業協同組合、宮城県森林組合連合会、みやぎ生活協同組合、協同組合日専連仙台（2021年3月に解散）の五つです。生産者の組合と消費者生協、小売業者の組合が協働でMELONを起ちあげ、長年支え続けてきてくださったことは、全国的にみても、おそらく世界的にみても、特筆大書すべきMELONならではの大きな特徴です。農業も漁業も林業も、小売業も、消費者生協もさかんな宮城県ならではの地域的特質を背景としています。このような背景を持つ環境団体がMELONのほかには存在しないことは、このことの何よりの証拠です。

あたかもオリンピックの五輪のマークのように五つの協同組合によって支えられてきたMELON。現在は四輪にはなりませんが、四輪駆動（4WD）の自動車のように、この四つの協同組合の引き続きの強力なご助力をお願いする次第です。また、脱炭素社会の一刻も早い実現に向けて、宮城県はじめ多くの自治体、製造業や卸売業、サービス業等の事業者の皆様とも今後ますます連携し、一緒に取り組んでまいりたいと思っています。

次の30年をともに作りあげてまいりましょう。

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク—通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 MELONの30年！これまでとこれから
理事長 長谷川 公一
- P2 ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.101
- P3 ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.101
- P4 部会だより
- P5 かんきょう見聞記/目指せ100人！環境リレートーク
- P6 企業・団体と取り組むSDGs①
- P7 企業・団体と取り組むSDGs②
- P8 会員ひとこと～く/MELONフォト
/イベント情報/編集後記

ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.101

ストップ温暖化センターみやぎとは 宮城県地球温暖化防止活動推進センターの通称「ストップ温暖化センターみやぎ」。2000年にMELONが宮城県知事の指定を受け誕生しました。全国各地の地球温暖化防止活動推進センターは、1998年に制定された「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、地球温暖化防止活動の拠点として、各都道府県知事や政令指定都市等の市長が指定しています。



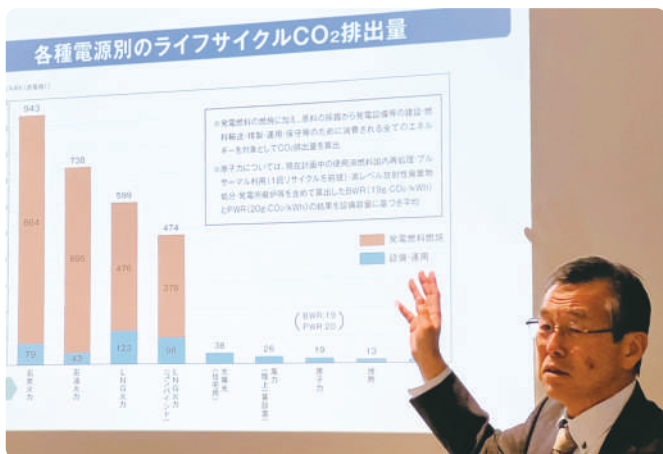
鳴子温泉から湧き上がる地熱エネルギーへの期待 「スパッと鳴子温泉自然エネルギーの取り組みを知ろう！」

日 時：2023年11月27日（月）14：15～15：45
場 所：cafe gutto（大崎市鳴子温泉）
参加者：21名
講 師：佐々木敬司氏（NPO法人スパッと鳴子温泉自然エネルギー 理事長）
村松淳司氏（東北大学多元物質科学研究所 教授／MELON 評議員）

NPO法人スパッと鳴子温泉自然エネルギーは、宮城県大崎市を拠点に活動している団体です。2023年2月に開催された「脱炭素チャレンジカップ2023」において、「気象キャスターネットワーク 最優秀市民・学校エコ活動賞」（全国からのエントリー数194、各賞受賞団体31）を受賞しました。

はじめに、佐々木理事長より、NPOの活動主旨や活動実績等について話をさせていただきました。お話の冒頭では、大崎市立鳴子中学校等での出前授業の様子が動画で紹介され、子どもたちが大変意欲的に授業に取り組む姿が見られました。

また、村松教授より、地球温暖化のメカニズムやカーボンニュートラルの考え方、国内外の再生可能エネルギーへの切り替え状況等について話をさせていただきました。後半はスパッと鳴子温泉自然エネルギーの取り組みに加え、鬼首の地熱発電所や福島県土湯温泉の事例も踏まえながら、地熱エネルギーに焦点をあてた話をさせていただきました。（MELONのHPより村松教授によるお話の概要がご覧いただけます。）



東北大学多元物質科学研究所（MELON 評議員）の村松教授



スパッと鳴子温泉自然エネルギーの佐々木理事長

参加者の声（アンケートより一部抜粋）

- ・地熱発電はCO₂排出量が少なく、蒸気・熱水が再利用できるというメリットについての説明と、鳴子、鬼首の報告が興味深かった。
- ・日本の地熱ポテンシャルが世界的に見て高いことが印象に残った。
- ・日本の地熱資源は世界3位とのことですが、地熱を利用した発電はほとんどない現状がもったいないと思いました。
- ・再生可能エネルギーの施設（地熱鬼首も含む、太陽光・風力・中小水力・バイオマス）に行ってみたいと思いました。
- ・地元のカフェでのイベント、というのがすごく良かったです。

本催事を通して、地域のエネルギーのポテンシャルの高さと、地域エネルギーを活かすことがカーボンニュートラルにもつながることが分かりました。参加者アンケートからも地熱エネルギーへの期待が湧き上がり、「見学してみたい」という次の行動へのきっかけとなった様子がうかがえました。



地熱発電の仕組みが分かる装置



*「MELONみやぎSDGs環境アドベンチャー」の講座は、カーボンオフセット証明書を取得して実施しており、会場使用によるエネルギー、運営者や講師等の移動に係るエネルギーの使用量を、登米市の私有林間伐促進森林吸収プロジェクトにてオフセットすることにより二酸化炭素削減に貢献しています。



「海から見る地球～気候変動と海洋プラスチック問題～」開催報告

日 時：2023年10月21日（土）13：30～15：30
 会 場：khb東日本放送ぐりりホール（仙台市太白区）
 ※YouTube同時配信
 参加者：93名（会場58名、オンライン35名）
 司 会：櫻田彩子氏（エコアナウンサー）
 講 師：武本匡弘氏（プロダイバー、環境活動家）

講師の武本さんより、約40年にわたり撮影された美しい海の写真とともに、航海日数延べ270日間・航海距離29,000kmの報告を交え、海の環境について話をいただきました。数年でがらりと変わってしまった海の中の風景…事実を目の当たりにし、会場の子もたちは思わず声が出るほど衝撃を受けた様子でした。



美しい海の景色を見ながら



講師の武本匡弘さん



総合司会のエコアナウンサー・櫻田彩子さん



会場はkhb東日本放送放送内のぐりりホール

参加者の声（アンケートより一部抜粋）

- ・梱包材の少ない商品を買うなど、無理せずできることを長く続けていきたい。
- ・今まで一人で取り組んでいたがMELONに参加してみようと思った。
- ・珊瑚の白化や気候変動が深刻な状況が良くわかりました。未来の子どもたちのためにも改善していかなければならないと思いました。
- ・今日も子どもたちがたくさんおりましたが、大人も子どもも楽しめました。

ヘチマの種取り・命のバトン～仙台市立芦口小学校

SDGs教育プロジェクトで支援してきた仙台市立芦口小学校5年生のグリーンカーテン。シンプル&スローライフの会とせんだいE-Action実行委員会、MELONが連携して継続的に進めてきました。

2023年11月21日（火）、ヘチマ博士の金井修さんによる「命のバトン」の授業が行われました。2人1組で

乾燥したヘチマの実の中に入っている種を数えました。結果は、合計7,324つぶ、1個平均は253つぶでした。子どもたちは、むいた実と種、ヘチマたわしをもらいました。種が命のバトンとなって、きっと来年につなげてくれることでしょう。



ヘチマ博士・金井修さんの大きなヘチマの実！



木のへらで表面の皮をむいて、黒い種を取り出す



役割を終えたカーテンをみんなで撤去



部会だより～みやぎ里山応援団主催 「七北田公園・木の観察会」の報告

日 時：2023年11月18日（土）10:00～11:30
 場 所：七北田公園（仙台市泉区）
 参加者：22名
 講 師：佐藤権一氏（公益財団法人仙台市公園緑地協会
 七北田公園都市緑化ホール・緑の相談員）

樹種や木の特性を知り、身近な自然に親しむため、「七北田公園・木の観察会」を開催しました。前日の雨が上がった秋晴れの中、講師の佐藤さんによる樹木の解説を聞きながら公園を歩くと、ドングリが根っこを生やしていたりキツツキによる穴があったりといろいろな発見がありました。途中、参加者のお子さんや近くにいた子も参加してドングリゴマを作って回しました。参加者から「幸せな思いでいっぱいになりました。」というすてきな感想をもらいました。



講師の佐藤権一さん



プラタナスの葉



参加者のみなさん



ドングリゴマ



部会だより～水部会主催「松島湾・桂島から学ぶ」の報告

日 時：2023年10月22日（日）9:00～15:00
 場 所：石浜～桂島（塩竈市浦戸桂島）
 参加者：20名
 ガイド：内海信吉氏（浦戸諸島 海と花の物語、桂島在住）

塩竈市浦戸諸島で暮らす人々の水環境を知り、私たちの暮らしに大切な水への関心と理解を深めるため散策会を開催しました。

塩竈市浦戸諸島は、湧水がなく、雨水に依存してきた歴史があります。桂島・石浜地区の津森山にある雨降石は、「石を叩くと必ず雨が降る」と言い伝えられているそうです。

また、島のゴミ問題も目の当たりにしてきました。



傘の形の雨降石



青い空と海が美しい

「島を案内していると訪問者から『ゴミ多いね！』と言われるのがつらい」とおっしゃるガイドの内海さん。海岸にある多くのペットボトル容器などはほとんどが海から打ち寄せられたもので、処理するためにはすべて船で移動させなければならないそうです。



友だち持つなら

落語篇③

六代目三遊亭圓生

「小言幸兵衛」

石垣政裕 (MELON 理事)

もしかしたら自分の子どもに「友だちは選ばないといけな、悪い友だちとつきあうと自分も悪くなるからね」という親がいるかもしれません。例えば「総合的」様や「俯瞰的」ちゃん、「政治判断」君にときどきつきあわされる「科学的根拠」さんをどうしても不憫に思うのであります。

片や、ものごとを悪い方に、悪い方に考えていく友だちも、つきあいにくいとは思っていたのですが、どうもこれは見直した方がいい気もしてきました。つい最近、福島原発で汚染水から放射性物質を取り除く設備を洗浄中にホースが外れ、放射性物質を含む水が作業員にかかったり、大阪府の核燃料事業所のダクトにたまっていたウラン粉末が大量に見つかったり、しょっちゅうこんな事故が起きています。

誰かそんなことが起きるとい、『悪い』事態を想定、少なくとも想像していた人はいなかったんでしょか。そこで、六代目三遊亭圓生の「小言幸兵衛」(ザ・ベスト・オブ落語第四巻、ユーキャン、2004年)を聞いてみましょう。

小言幸兵衛と呼ばれる幸兵衛さんは、長屋の家主。朝、長屋中を見回りながらひとしきり小言を言いくる。あるとき、仕立て屋が部屋を借りに来ます。幸兵衛さん、最初はこの仕立て屋を気に入っていたのですが、息子がイイ男で腕もいと聞くと、「部屋は貸せない」と突然言い出します。イイ男というだけで、近くの若い娘お花といい仲になって、やがて両家もめて心中事件に発展していくと、次から次へと、貸せない説明、悪い物語を作り出していきます。

深刻な原発事故にもつながった津波の高さだって事故前にちゃんと指摘していた人がいました。いま、ほんとうに環境のことを考えるなら、この悪い事態を想像してくれる小言幸兵衛さんのような友だちを大切にしなければいけませんね。



目指せ100人！ 環境リレートーク

どんな想いのもとに、どんな活動をしているのか寄稿していただいているコーナー。執筆者に次の方を紹介していただくリレー形式で、環境活動の輪を広げていくことを目的としています。



第91人目の執筆者

萩原洋平さん

(公益財団法人日本野鳥の会
／東京都)

都内で生まれた私は生きものに興味を持つ子どもでした。幼少時、カブトムシに会いたくて図鑑の一部分だけを読み、家の柱に蜜を塗り母親に叱られた記憶が残っています。

小学校入学時、神奈川県海沿いに転居します。そこは都内に比べると自然が多くあり、通学時、住宅街の道をカニが横切り、夢中で追いかけて遅刻してしまうような日常でした。高学年になる頃、遊び場である川の汚れに気づくようになります。卒業文集のタイトルは「釣りと僕と自然」で、今思えば、この頃が今の活動の原点だと思えます。

その後、部活などが生活の中心になりましたが、

自然への想いは変わりませんでした。

大人になり企業へ就職したものの、子どもと自然を繋げたいとの思いが強くなり、保育士を経て現在の仕事に出会いました。

入職後はレンジャーとして環境調査・管理・教育を12年ほど担当してきましたが、現在は現場を離れ事務を担当しています。

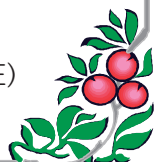
プライベートではフリースクールや近所の酒屋に集う人たちなど、様々な人に、身近な自然に気づき、日常でも楽しんだり、目を向けてもらえるきっかけづくりに取り組んでいます。

生活の中で、自然環境の変化に多くの人が自らの肌で感じられれば、未来は良い方向に変えられると信じて、今後も地道に楽しく、様々なジャンルの人と関わり合いながら活動を続け、未来の子どもたちに少しでも良い地球を引き継いでいきたいです。

… 次号執筆者紹介 …

亀井 里美さん

(HOMEROASTING7325COFFEE)



企業・団体と取り組むSDGs

MELONの活動を支えていただきありがとうございます!

「うちエコ診断」を活用して脱炭素経営をすすめませんか?

MELONでは、ストップ温暖化センターみやぎの事業として、「うちエコ診断」の出張サービスを実施しています。

従業員の皆様に「うちエコ診断」を受けていただくメリット

① おうちの節約!

「うちエコ診断」を受診すると、各家庭にあった省エネ対策と、光熱水料の削減のコツがわかります。

② 事業所の経費削減!

家庭の省エネ対策の知識と経験は、企業の光熱水料の削減に活かれます。

③ 脱炭素経営!

省エネは経費削減と二酸化炭素排出量の削減になり、脱炭素経営につながります。



「うちエコ診断」とは?

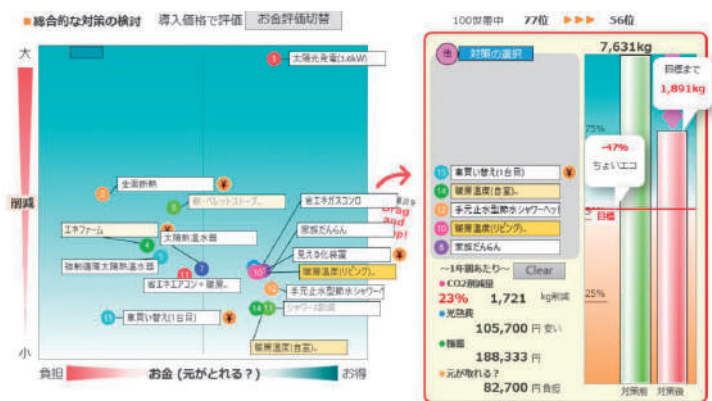
「うちエコ診断士」

省エネに関する知識を持つ「うちエコ診断士」(環境省認定の公的資格)が、ご家庭の年間のエネルギー使用量や光熱水料などの情報をもとに、地域、家族構成などから各家庭のライフスタイルに合う省エネのアイデアや二酸化炭素排出量の削減への取り組みをご提案します。



「うちエコ診断ソフト」

各家庭の光熱費や、地域、家族構成等を入力すると、その地域で同じような世帯と比較した際の光熱費・二酸化炭素排出量のランキングや暖房や給湯など各分野ごとの対策と効果が一目でわかります。



暮らしをサステナブルに!

IKEA 仙台でうちエコ診断をしよう



IKEA 仙台 ストア情報

IKEA仙台では、来店されたお客様を対象に、家庭でのサステナブルな暮らしをサポートする様々なイベントが開催されています。「うちエコ診断」もその一つで、各家庭のライフスタイルに合わせた光熱費削減のアイデアや、家でもできる地球温暖化対策への取り組みなどを提案しています。また、「へちまたわしづくり」のワークショップを併設し、脱プラへの関心を高めたり、「かんきょうかみしばい」の同時上演により、環境を考えるきっかけをつくったり、MELONとIKEA仙台とでアイデアを出し合いながら、小さなお子様連れの家庭でもうちエコ診断を受けやすくする工夫をしています。

宮城県のアプリで楽しみながらエコアクション!

街の宅配便ロッカーを活用しよう

ヤマト運輸株式会社 新宮城主管支店
地域と連携した取り組み情報

ヤマト運輸株式会社 新宮城主管支店では、紙や廃プラスチックの分類・回収によるリサイクル率の向上、営業所へのラベルレス飲料導入など、独自の創意工夫をこらした取り組みが行われています。輸送に関わる部分では、2023年7月より宮城県の環境配慮行動促進アプリ「ecoチャレンジみやぎ」のエコアクションとして、再配達抑制によるCO₂排出量削減が期待される「PUDOステーションを利用した荷物の受け取り・発送」や、紙資源のリサイクル率が高い送り状利用を促す「ネコピットを利用した送り状発行」が追加されました。同年10月よりMELONに入会され、今後はMELONとヤマト運輸株式会社 新宮城主管支店とでコラボレーションを展開していきます。

つながる地域の輪!

グリーンカーテンをみんなで育てよう

NPO 法人まちづくりスポット仙台
イベント情報も随時更新中

NPO法人まちづくりスポット仙台（以下、まちスポ仙台）は、長命ケ丘・桜ケ丘・川平・加茂・富谷・大和町など、仙台北部エリアを中心とした住宅地のまちづくりを支援している団体です。MELONは、まちスポ仙台からの相談を受け、みやぎのSDGs環境学習支援の一環として、グリーンカーテンの育成および近隣小学校とのコーディネート等の支援を行っています。2023年6月、仙台市立長命ケ丘小学校の5年生がランチ仙台（まちスポ仙台が入居している商業施設）にて、ゴーヤとアサガオ、ヘチマの苗を植えました。最初はヒョロヒョロでしたが、同年9月には見事なグリーンカーテンへと成長しました。



会員ひとこと〜

会員の皆さんの環境への思いやイベントに参加しての感想を声にしていきます。

一人ひとりとしても環境保護活動に取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

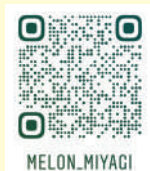
(匿名)

『MELON フォト』

みやぎゼロカーボンチャレンジ2050県民会議が始動しました！宮城県では個人、企業・団体会員を募集中です！詳細は@miyagi_co2_zeroのアカウントをチェック！



MELON
Instagramも
フォローよろしく
お願いします！



MELON情報紙のバックナンバーは
MELONウェブサイトにてPDFで公開
しております。



編集後記

■あけましておめでとうございます。2023年は気候変動の影響をひしひしと感じる1年でした。2024年はさらに気候変動対策の行動変容していく必要性を訴えていきたいです！（吉田）

■あけましておめでとうございます。今年も持続可能なエネルギーの重要性を伝えながら、快適に過ごせる節電やペラダ発電のアイデアをシェアしていきます！（早川）

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

イベント一覧（1月～4月まで）

1/10 (水)	水部会例会
1/17 (水)	4R 推進部会例会
1/22 (月)	情報センター例会

ご寄付・会費のお支払いの際に、
**オンライン決済が
できるよう
になりました**



※ Syncableというファン
ドレイジングサービスサ
イトにつながります。

<https://syncable.biz/associate/melon>

会費のお支払いに、ぜひクレジットカードをご利用ください！

※ご寄付のみ Amazon Pay もご利用いただけます。

※5年会員の方は、ご利用いただけません。

〈会員状況〉

457名

法人 54

任意団体 7

個人 396

2023年12月18日現在

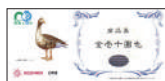
ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。



MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、(株)日専連ライフサービスで発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。



発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL <https://melon.or.jp>

落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。



この印刷物は、
輸送マイルージ低減によるCO₂削減や
地産地消に着目し、国産米ぬか油を
使用した新しい環境配慮型インキ
「ライスインキ」で印刷しており、
⑥ 印刷用紙へのリサイクルが可能です。